

=====

JVCシニアクラブ便り 2016年1月号 (No.28-2)

=====

発行：JVCシニアクラブ
会長：菅沼 喜久次



■ご挨拶「年頭にあたり」 会長:菅沼 喜久次

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いにて、良き新年をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

JVCシニアクラブは、平成14年10月5日に58名の会員にて結成されました。今年はそのから数えて14年目を迎えることとなります。この間、会員各位のご協力を得ながら、会員の拡大に努力を続けてまいりました。その結果、延べ会員数は300名程になりましたが、高齢化・健康上の理由など会員それぞれの個人事情により、諸行事への参加ができずに退会される方もいて、現在の会員は240名前後を推移している状況です。

会員の拡大はなかなか困難な状況にありますが、今年も昨年10月7日開催の定期総会にて確認された活動方針に沿った、諸行事の企画実践を通じて、未加入者にも積極的な参加を呼びかけ、入会へ結びつけられるよう会員各位のご協力をお願い致します。

JVCシニアクラブは、寿会とは若干異なりOB同志の親睦・交流を深めつつ、社会福祉制度の年金・医療・介護などの制度改悪を阻止し、より改善を目指して上部組織の「JAMシニアクラブ」や「日本退職者連合」との連携をはかりつつ、「シニアライフをイキイキと」とのJVCシニアクラブのホームページタイトルの基、講演会・学習会・見学会等を実施してまいります。

とりわけ今年の7月予定の参議院議員選挙においては、私たちの仲間である「JAMの組織内候補予定の「藤川しんいち」氏を支援することとしております。会員各位におかれましては、なにとぞご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

当クラブの行事として、昨年10月の定期総会を皮切りに、12月には本部勤労会館においてマイナンバー制度勉強会を開催いたしました。今後、各支部単位の行事も展開されますので、会員各位の積極的なご参加をいただき、皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、年頭にあたり切にお願い申し上げます。

■トピックス：マイナンバー制度

マイナンバー制度導入の目的には「国民一人ひとりの収入を把握し正しい徴税と、その公平なる分配」があります。所得隠しや不正申請などによる税逃れ、ダブル請求といった不法行為を阻止し、社会保障などのために税金が本当に必要とする人に回ることが最大の目的と考えられています。さらに、行政手続きの簡素化や、行政側の業務効率化が期待されます。

今年1月から、「社会保障、税、災害対策」の行政手続きでこのマイナンバーが必要になり、窓口における一部の手続きから早速実施されることになりました。

昨年9月の常総市洪水被害の際、行政側が被災者の避難先での正確な人数把握に手間取ったことはまだ記憶に新しいところです。このようなケースで、マイナンバーを確認すれば人数をダブルカウントすることも無く、短時間の内に正確な数を把握することが出来るようになります。大災害により、避難が長期に及ぶ際も、避難所単位での人数・性別・年齢の把握ができれば、適切な支援物資の支給判断も可能となります。

一方で、最近日銀券（紙幣）の市井への供給が増えているそうですが、景気の回復傾向という理由だけではなく、銀行から現金を降ろす人が増えているという話も聞きます。複数の銀行に金を預けていても、マイナンバー制度で財産が把握されてしまうため、たんす預金に回しているのだ！との噂ですが、この噂は本当でしょうか。

さらに、国民の理解が深まらないうちに、このときに乗じて「マイナンバー詐欺」も多数発生していたようです。

このような新制度導入に理解を深めるべく、当シニアクラブ会員の八木 三さんを講師にして、12月8日（火）「マイナンバー制度」の勉強会を開催しました。

八木さんには、一年前にも「相続税改正について」講師をお願いしましたが、今回もまた分かりやすい内容で講義をしていただきました。

講義後の質疑応答ではいくつもの質問が続き、参加者の関心は高かったものと思われませんが、このマイナンバー制度については、今後、国としていろいろな利用を考えている途上であり、詳しくは分からないところも多々あります。

国としても、「マイナンバー制度の周知・広報について」0120-95-0178（無料）で対応をしているので、お問い合わせください。

■事務局から

昨年12月8日にはマイナンバー勉強会に続き、インターネット展示会を開催しました。JVCシニアクラブのホームページ紹介と、そこに写真などを投稿していただいた方から内容について説明がありました。別紙のカラー印刷ページに当日の写真とともに、今年1月現在のホームページトップの画像を記しましたのでご覧ください。

会員の投稿が少しずつ増えてきています。今後も皆様からの写真・絵画・書・紀行文など、是非お寄せください。そして、多くの人からのアクセスも期待しています。

事務局長 田代 周

